

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ 臨床研究へのご協力のお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたくないお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

重症大腸穿孔の治療戦略に関する研究

1. 対象となる患者さん

2015年1月～2025年8月の間に大腸穿孔で当科へ搬送され手術を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 救急科 大崎 徹

3. 研究の目的と意義

大腸穿孔は、腸に穴があき、お腹の中に便が漏れてしまうことで腹膜炎をおこす命に関わる重い病気です。手術によりできるだけ早くお腹の中を洗って感染を防ぐことが大切です。従来は、穴のあいた腸を切除する、お腹の中を洗う、再建する（人工肛門をつくる、あるいは腸をつなぐ）、お腹を閉じる、という手順を1回の手術でおこなっていました。しかし、当科（高度救命救急センター）に搬送される患者さんの多くは非常に重症で、長時間の手術が体への負担になり、耐えられない場合があります。そこで当科では、1回目の手術で穴のあいた腸を切除しお腹の中を洗う、2回目の手術で再建をおこなう、というように手術を2回以上にわけておこない、1回の手術を短くして治療を進める方法（ダメージコントロール手術）を取り入れています。また、手術開始をできるだけ早めるため、手術室ではなく救命センター外来でおこなうこともあります。

この研究では、過去に当科でおこなった大腸穿孔の治療内容や経過を振り返り、どのような治療がより効果的かを検討し、今後の患者さんの治療成績向上につなげることを目的としています。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、解析します。

5. 使用する情報

年齢、性別、既往歴、来院時バイタルサイン、血液検査項目、病着～手術開始時間、手術時間、穿孔部位、術式、穿孔した原因（大腸癌が関係しているかどうか）、手術場所（外来/手術室）、ダメージコントロール手術をおこなったかどうか、2回目の手術日、閉腹までの手術回数、吻合したかどうか、術後合併症、術後合併症に対する処置内容、入院日、手術日、転退院日、ICU入室日数、人工呼吸管理日数、術後30日以内合併症（CD分類）、転退院時の生存/死亡

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2029年3月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問合せ先

奈良県立医科大学附属病院 救急科 大崎 徹

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：k190143@naramed-u.ac.jp